

鈴鹿ベイロータリークラブ

例会日 木曜日 18:30～19:30
例会場 鈴鹿サーキットホテル
事務局 〒510-0295 鈴鹿市稲生町7992
鈴鹿サーキットホテル
TEL 059(379)2484 FAX 059(379)2770



人類に
奉仕する
ロータリー



第1226回 例会報告 (2016年8月27日)

鈴鹿・亀山GRIM・ガバナー公式訪問合同例会

会長、幹事

■司会 / 鈴鹿シティ R.C 本居美佳 ■ロータリーソング / 君が代、奉仕の理想

■5クラブ会長代表 挨拶 / 鈴鹿シティロータリークラブ 会長 櫛田浩哉

劔田ガバナー、そして伊藤代表幹事には、遠路高山より、鈴鹿の地にお運びいただきまして誠にありがとうございます。後ほど卓話を頂きます。宜しくお願いします。本日は鈴鹿・亀山グループ5クラブ合同の例会ですが、劔田ガバナーの地元高山には、3つのクラブがあるそうです。

PETS 初日の懇親会の後、飲み会の席で高山中央ロータリークラブのメンバーの方に、高山の3つのクラブの特色についてお聞きしました。すると、そのメンバーの方は「懇親会に高山クラブさんは芸者さんと呼ぶし、西クラブさんは着物のお姉さんと呼ぶ。中央が呼ぶのはまず、ミニスカートのコンパニオンさんやね。又、宴席の余興で高山クラブさんは俳句をひねる、西クラブさんは川柳をひねる、中央はひねるものが違うんだな。」と説明してくれました。思わず笑ってしまいましたが、とってもそれぞれのクラブの歴史を感じさせ、その元気を伺わせるに充分なお答えと関心した次第でございます。鈴鹿・亀山グループ5クラブの特色をこんな一言のフレーズで表すとどうなるかは、皆さんの想像にお任せするとして、それぞれに、良き伝統を持ち特色豊かで、すばらしいメンバーをもつクラブばかりであります。今回の規定審議会における定款変更を受け、また新たに違いが生まれてくるのかとも思います。

そんな中、これから将来もその特色を生かしつつ、5クラブが、より親睦を深め、協力しあいながらこの地域で、ロータリー活動をしていければ、いいなあと思っております。大変失礼なことを言いました、お許し下さい。以上で会長の挨拶を終わらせていただきます。ありがとうございました。

■出席報告

例会日	会員数	出席者	欠席者	出席率
8月27日	12名	12名	0名	100%

2週間前の補正後出席率 12名中 10名 83.33%

■例会 / ガバナー公式訪問

ガバナー講演 劔田廣喜

今年度第 2630 地区ガバナーを務めます劔田でございます。所属は高山中央 RC です。皆様とともにロータリー活動ができることを大変光栄に存じております、どうか、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2016 年度規定審議会で大きな変更があり、それによってクラブが混乱していると聞きます。

今回の規定審議会変更のバッボーンは、現在、国際ロータリーによると、ロータリー会員の 70%以上が 50 歳以上であり、30 歳未満が世界人口の約半分を占める今日の世界と大きくかけ離れています。会員増強のカギの一つは、例会に関する厳しい規則を和らげ、若い世代とデジタル志向の人びとのニーズに応えること。若い世代の参加を促すには「時代に即す」ことが何よりも重要という考えに方にそった若い世代へのプロモーション、リクルートであると思います。

2016 年度規定審議会の変更をひと言で云えば、**クラブに柔軟性**を持たせること即ち、今まででは、決まったことを「頼り」にしていれば済んだところが、これからは、クラブの在り方全てがクラブにその**自由と、責任が課せられた**とも云えます。クラブが**自主性**をもって進むべき方向を決定しなければならないと云うことです。つまり発展するも沈滞するも、クラブ次第になったのです。

また見方を変えれば、日本の伝統的なロータリー文化を順守しようと考えれば、今まで以上にその理念を明確に打ち出すことも可能であると考えられます。

いずれにせよ、RI の示す方向に進んでも良し、伝統を守っても良し、多様性が認められ、**クラブは二極分化**が進むでしょう。これからは、クラブが選ばれる時代となります。

それでは、クラブの方向性を示すものはなにか？云うまでもなく**クラブ細則**です。

細則の中で、独自性即ち**所在地域における存在意義**を示すことができないクラブいずれの方向性も示すことができないまま途中半端なクラブ、**クラブ細則で管理運営**できないきないクラブが衰退するであろうことは断言できます。

(服部芳樹 PDG 2016~17~18 年ロータリークラブ細則 原案解説参照)

クラブの自主性についてロータリーの 4 代目会長フランク・マルホランドは「1 番大切な事は各 RC の自主性である。ロータリー運動は各 RC によって支えられ、RC が主体的に物事を考える為には、1 人 1 人のロータリアンの質が問われるのだ」と力説いたしました。

最近ロータリー活動が多面的になり、新しい会員には、ロータリーとは何であるか余程よく説明しないと、わかり難いと思われまので、ロータリーに経験の深いベテランロータリアンによる簡便な説明が伴わないと、ロータリーが何であるかわからないまま、或いは終わってしまうことにもなりかねないと危惧しています。



単に定款・細則やロータリー用語の開設に終始することなく、会員自身がロータリーに興味をもち、自らがもっとロータリーを知ろうとする、そして一人でも多くの会員にロータリーが好きになるきっかけを与えることが大切ではないでしょうか。

こうしてロータリーを知ることにより、ロータリーに情熱を燃やすようになり、意欲的なロータリアンになるものと思われまふ。

今回の変更で見えてきたものがあります。それは、RI の変質であります。

これまで、国際ロータリーは3年ごとの規定審議会を経るごとに、雪崩を打つかのように変貌し、今や国際ロータリーはロータリー財団頼みの組織に変質しました。国際ロータリーは人道的世界社会奉仕事業を金看板とする組織なのです。

国際ロータリーは、もう例会なんかやってもやらなくてもいいのです。ロータリーの奉仕の理念の研鑽、解明もどうでもいいのです。すべてクラブ、ロータリアンにまらなげです。つまり、直接監督権の放棄であり国際ロータリーの終焉の始まりです。ロータリー財団の国際ロータリーに変質してしまいました。

今年度 RI 会長テーマは人類奉仕するロータリーです、そしてロータリー全体の目標は戦略計画の実践です。戦略計画の**3つの優先項目は<クラブのサポートと強化><人道的奉仕の強化><公共イメージと認知度の向上>**でしたが2014年10月④財政的継続性と運用有効性の向上です。これは、まさしく財団支援を意味しております。更にロータリー財団も優先事項として①ポリオ撲滅②財団の寄付推進③世界の6つの重点項目に特化した活動、財団の奉仕活動の質と影響力の向上④財団のこれまでの成果の強調を骨子としたものであります。ジョン・ジャーム RI 会長の今年度版戦略計画は、RI の戦略計画のそれぞれの優先項目の中にこの4つの財団の優先項目を組み入れたものであります、RI と財団の融和どころか財団が RI のすべてであり、財団の RI になってしまったのです。

ファイナルインチを迎えたポリオ撲滅に続いて RI が未来を託す巨大プログラムは世界平和に関するものでしょう。ノーベル平和賞まで視野に入れた徹底した成果主義によって RI のブランド、アイデンティティーの確立を目指したのです。これが財団100年の歴史が指し示す RI の方向性です。

この様に国際ロータリーは、人道的世界社会奉仕に向かつて突き進んでいきます。私は人道奉仕が悪いと言っているのではありません。ロータリアンは常に弱者に涙する心を失ってはなりません、財団の寄付、人道奉仕はできる限りしなければなりません。ただ、それはロータリアンが例会で奉仕の心を身に着けたことの反射的效果にすぎないのでから、あくまでも、ロータリーの心を磨き職業奉仕の専心によって自分の職業を安泰にしてからということです。今や例会やクラブ委員会活動における人間形成への努力が忘れ去られ、寄付額や単なる社会奉仕活動の実績だけでロータリークラブやロータリアンが評価されることに重点が置かれ、その見返りにロータリーが失ったものはロータリー精神性、ロータリーの心であります。

私の、公式訪問の卓話で皆さんが反応、賛同するのはこのロータリーの心のところす。それは、近年のロータリーは金集め、人集めの色彩が濃いかからではないでしょうか？ロータリアンの多くが最近のロータリーは少しおかしいと考えていからではないでしょうか？

ここで、ロータリーの心を説明させていただきます。

（ロータリーのころ）私達はこれまで（ロータリー）をあまりにも難しく考え、語ってきたのではないかと思います。ロータリーという組織は決して複雑で難解なものであつてはならないし、そうなるものでもありません。なぜならばロータリーの理念は古くから人間が大切にしてきた道徳、つまり中国で古くから使われる仏教用語の寛恕（広い心で許す）（わたしは、思いやりの心、助け合いに心と言っております）。

ですから、ロータリーが訴えかけている奉仕の理念は時代を超えて変えてはならないロータリーの心と呼びなおしてもいいと思います。ここで、ロータリーのころとは何かを解りやすく話させていただきます。

「昔、インドに相思相愛の王様夫婦がおりました。ある日王様が最愛の奥様に、『よく考えてみると、私は、最愛のお前より、私自身が一番愛しいように思う。』といわれました。それに対して奥様も、『実は、私も、貴方より私自身の方が一番愛しいと思います。』と答えられました。王様は『皆が皆、自分自身が一番可愛いと思ったら、この世の中は成り立たないから、お釈迦様に聞いてみよう。』と云って二人でお釈迦様を尋ねたそうです。お釈迦様は、二人の話聞いて『人間は誰でも皆、自分自身が一番可愛いのです。それでいいのです。ただ、相手も、自分自身が一番可愛いと思っていることを忘れないように。』とお諭しになられました。」

ここに相手に対する思いやりの心が生まれるのです。自分以外の人に対する愛が始まるのであります。世の中の人皆、このような心、「他人の事を思いやり、他人のために尽くす」という心を持って初めてこの世の中が成り立つのであります。

自分自身を愛することが出来て初めて人を愛することが出来るのです。そして世の中の人のかを考へることが出来るのであります。これがとりもなおさず「ロータリーの心」であります。

ここで職業奉仕の説明をします。職業奉仕は儲けたいという内向きのエネルギーとお客に役立ちたいという外向きのエネルギーの調和です。これは寛容なくしては果たせません。この相反するエネルギー中心に、ロータリーの心（相手に対する思いやりの心）を置くことが職業奉仕であります。またこれが巡り巡って自らの利益へ帰ってくるという因縁果律（世の中の成り立ちは、善悪で構成されているのではなく、あくまで前世因縁なのである）。です。地球上でボールを投げあげたら、やがて地上に落ちてくることに似て、覆すことのできない自然の法則なのです。だからこそ永続きしているのです。

（ロータリーの変貌）

奉仕の第1世紀を終え、国際ロータリーはロータリアンに「ロータリーの心」を浸透させ、ひいては世間の人に高潔性を以ってなるロータリーとして認知してもらうという初期の目的を達成することに失敗しました。

「ロータリーの心」は世間で認知されないばかりか、ロータリアン自身の職業上の不正も相次いでいます。ロータリーの存在すら世間に認知されていないありさまです。アインシュタインは語りました。「同じことを繰り返しながら、違う結果を期待することは、狂気である」と。かくして RI は従来の手法を変えて出してきたのが、「戦略計画」、財団の「夢計画」に他ならないのです。「戦略計画」それを支える「夢計画」で訴えていることは、「人道的奉仕活動の重点化と増加」であります。そのための財政的支援、それを可能にする会員増強、そ

れを促進する公共イメージ、認知度の向上を目指したのです。ところが「人道的奉仕」が「職業奉仕」を凌駕してしまったのです。この変貌が行く末を不安にしている現在です。このように、ロータリーから基本的理念が失われ、例会、職業奉仕は形骸化し、ロータリーの形骸化となり、安易なボランティア団体に移行してしまう事を絶対くい止めなければなりません。それは、誇り高き日本のロータリー文化を受け継いで、例会、職業奉仕を大切にしたい人づくりのロータリーの構築です。

ロータリーはこれまで、産みの苦しみと、変貌に伴う波紋の中で哲学を構築してきました。愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶと申します。日本のロータリーの歴史を学ぶことによりロータリーの正しい姿を認識し、クラブの方向性を決めることが出来ると思います。わたしは、日本のロータリーの歴史とは？例会出席の歴史と言っても良いと思います。

第2次世界大戦中、アメリカのスパイ、秘密結社と言われ、日本のロータリーは大変な弾圧を受けます。京都 RC へ右翼団体が押し掛けロータリー解散を迫ります。その対応にあたった石川芳次郎会長は「ロータリーは職業人の集まりであって毎週例会において、世のため、人のための心を磨きその心を持って世のため、人のために奉仕をしている団体であります。したがって、忠国愛国、即ち天皇陛下の御為に奉仕活動をしている。」と説明したが聞き入れられず、最終的には「例会で日の丸を掲揚し、君が代を歌うこと」で話し合いがつかしました。京都クラブはさっそくこのことを日本中のロータリークラブに連絡し、以後、日本のすべてのロータリークラブは日の丸を掲揚し、君が代を歌うことになりました。このことは現在にまで継続されています。

ロータリーに対するいやがらせや弾圧は増々露骨になってきて、ロータリーは RI 脱会を余儀なくされました。しかし日本のロータリアンは「奉仕の理想」の精神を守り、名を変え、姿を変えて隠れキリシタンの様に例会を続けてきました。³⁷ あったロータリークラブのうち 17 クラブ (46 パーセント) が空白の 9 年間の最後まで、例会を一度も休むことなく運営しきったのです。(内 15 クラブが毎週例会を開いていたのです)。

なぜここまでして、例会を大事にしてきたのか、それは、日本のロータリーの創始米山梅吉翁の言われた例会は人生道場という言葉に心棒していたからです。戦前のロータリアンはみんなこれを信奉し、例会をロータリークラブの中核にどっしりと据えていました。例会の途中で退席するなど、考えもしないことでした。中途退席が目立つようになったのは、戦後の 1960~61 年 (昭和 35~36) ごろではないかといわれています。

こうして私たちの先輩達が命の危険も省みず守ってきた誇り高き日本のロータリー文化を細則に反映することが、私たちの使命であると考えます。誇り高き日本のロータリー文化は、ロータリークラブの自治権(細則)でしか守れないと言う事をご理解いただきたいと思います。我が国はこれまで、大化の改新によって中国文化の日本化に成功しましたし、明治維新によって西洋文化の日本化にも成功しました。アメリカ生まれのロータリーにも日本化の努力が払われました。ここに東西の温度差を生む土壌があります。また、国民性の違いもあります。合理性、効率性、論理性、数理性を重視し、自己主張により互いの違いを認識した上で始まる人間関係を基本とする西洋の国民性と、仁、義を重んじ (人間の間柄の美学) (情緒的人間関係) を大切にして、自己主張をできるだけ控えて人間関係の基本に (惻隱の情) をおくわが国の国民性とは確かに温度差があります。私はそれぞれの国民性の精神的基盤は、(キリスト教)

と（武士道）の違いではないかと思います。

いまイチロー選手の 3000 本安打が話題になっていますが、ベースボールと言えはかつて地球の裏側に別のベースボールがあると日本の野球は揶揄されたものです。しかし今は日本人選手の活躍で日本の野球は見直されていますが、ルールは同じでも試合の進め方が異なるからです。ロータリーも国際ロータリーの定款、細則は共有していてもクラブ運営、目的が違っていいのです。

現在、国際ロータリーが変質し、ロータリーの、100 年続いた伝統を、どんどん変えようとしている、と危機感を持っています

日本のロータリアンは、きちんと勉強し、ロータリーを学び、自主性をもつ必要があります。そして、何事にもロータリーの心を持ってあたると言う事です。今混迷の度が深い日本の社会でロータリーの心はもっとも必要な心ではないでしょうか。

（「続ロータリーを語ろう」・「新ロータリーを語ろう」D2680 久野薫パストガバナー 著参照）

■ 国際ロータリー第2630地区 鈴鹿・亀山グループ インターシティ ミーティング

今回のインターシティ・ミーティングは江戸落語と医学講話がセットになっていました。

第一部は江戸古典落語、休憩を挟んで第二部“いきいき医学講話”の口演でした。第一部の「たがや」（商売人の屋号）という古典落語は隅田川の花火大会が行われる限界での町民と武士とのけんか争い、と言うよりも殺し合いの少々寒々しい、夏には涼しくなるような噺でした。町民の「たがや」が見事に武士の首を斬り飛ばした時に、見物人から「たあまあやあ〜〜」ではなく「たあがあやあ〜〜〜」と掛け声されて話に落がつきました。

第二部は“いきいき医学講話”を楽しく聞かせていただきました。「笑い」と免疫力・・・そして健康」のタイトルのとおり、癌など多くの病気に抵抗する自己防衛力、自然治癒力を強くするのに”笑い”がどんなに大切かを述べられ、健康であり続けるのに役に立つ“笑い”の造り方や気持ちの持ちようについてお話しいただきました。

『笑い』は体の中にある宝物。これを使わずして人生を終わることなかれ！』

